

HYOGO

公的コワーキング 施設等位置図

- 県・市町等設置施設 **10**
- コワーキングスペース開設支援事業ハード型支援対象施設 **6**
- コワーキングスペース開設支援事業ソフト型支援対象施設 **10**
- シニア起業家支援事業支援対象施設 **1**

コワーキングスペース
フラット 豊岡
FLAP TOYOOKA (豊岡市)

養父市 6 次産業化支援センター (養父市)

古民家空間 kotonoha (多可郡多可町)

VERO artworks + VERO cafe (多可郡多可町)

カジヤノ (神崎郡神河町)

self-study 柏原 (丹波市)

SMILE ハウス (西脇市)

comado (丹波篠山市)

コワーキングスペース
CONCENT (西脇市)

ヘソノオ・プレイス Ann (西脇市)

.meBASE (神戸市北区)

Office Campus (三田市) ※10月オープン

起業プラザ
ひょうご
(神戸市中央区)

BASE 宝塚 (宝塚市)

神戸市産業振興センター
神戸ハーバーオフィス (神戸市中央区)

fabbitt 神戸三宮
(神戸市中央区)

尼崎創業支援オフィスアビーズ (尼崎市)

尼崎リサーチ・インキュベーションセンター
(尼崎市)

芦屋市商工会コワーキングスペース (芦屋市)

120 WORKPLACE
KOBE (神戸市中央区)

ヨシバンカンニカイ (神戸市長田区)

ON PAPER (神戸市中央区)

WAY OUT (神戸市中央区)

we work
三宮プラザ East (神戸市中央区)
※11月オープン

YORISOI 米田家 (洲本市)

神戸市中央区拡大

起業プラザひょうご

120 WORKPLACE
KOBE

fabbitt 神戸三宮

WAY OUT

we work
三宮プラザ East

ON PAPER

神戸市産業振興センター
神戸ハーバーオフィス

HYOGO

コワーキング スペースの 開設を応援します！

起業家支援や
テレワーク・副業を推進

コワーキングスペース開設支援事業 補助制度のご案内

趣旨・目的

地域における起業拠点を創出するとともに、テレワーク・副業等の多様な働き方に対応するため、起業家等を対象としたコワーキングスペースを新たに開設する事業者等に経費の一部を補助します。

補助対象者

県内において、事業の立ち上げを目指す方等を対象としたコワーキングスペースを新たに開設する事業者を募集しています。
3年以上の事業計画と、当該コワーキングスペースを利用する起業家等のビジネス活動・成長拡大を支援する計画（マッチング支援やセミナーの開催等）を有している方が対象です。

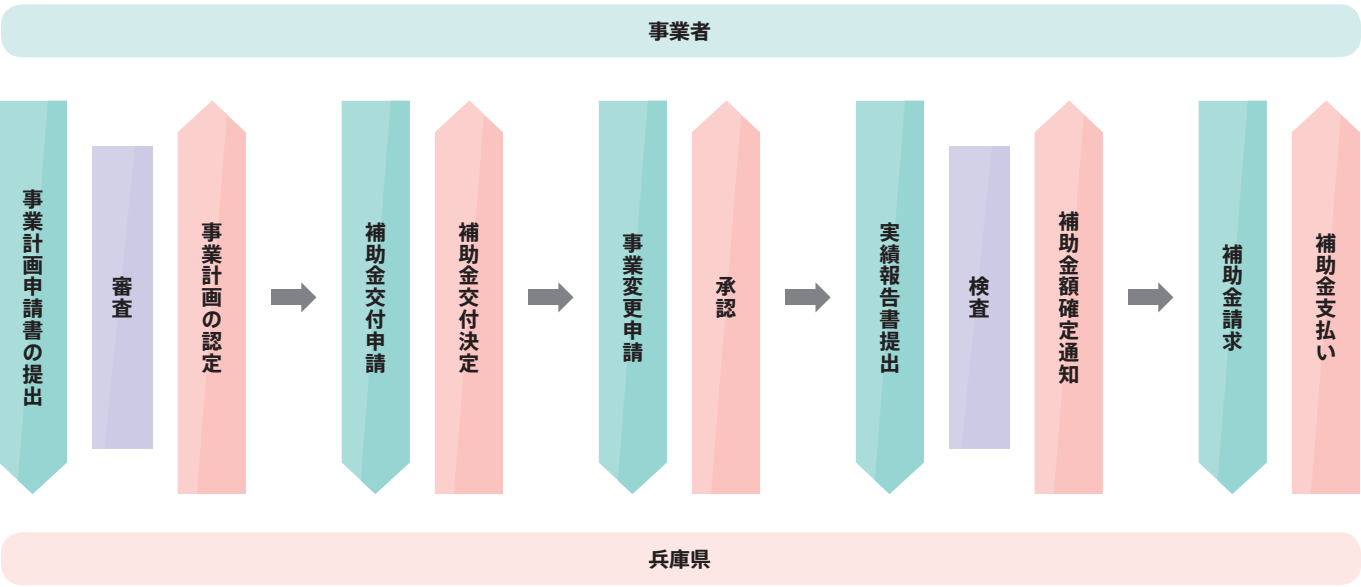
対象外

- ※同一市町内で既にコワーキングスペース運営を行っている事業者が、単に移転する場合は補助対象外。ただし、新たなコワーキングスペース開設、増床を伴う事業拡大による移転等の場合は、補助対象とします。
- ※新たに開設するコワーキングスペースが単に物流倉庫等である場合は、補助対象外。
- ※コワーキングスペース以外の事業と共存し、スペースの区分ができない場合は、売上額に応じて按分した上で、補助を行います。

ハード型・ソフト型の違い

ハード型では、建物改修費 500 万円（空き家活用の場合＋ 100 万円）と事務機器取得費 50 万円を補助します。
※なお、コワーキングスペース開設予定地の市町において、制度が創設されていない場合は、本メニューは活用できません。
本メニューを活用できる市町については、HP をご確認ください。
ソフト型では、建物改修費 100 万円（空き家活用の場合＋ 100 万円）と事務機器取得費 50 万円に加えて、賃借料 60 万円 / 年、通信回線使用料 60 万円 / 年、人件費 100 万円 / 人年を 3 年間補助します。

交付までの流れ



※補助金の支払い時期
賃借料・通信回線使用料・人件費：概算払の希望があれば 6 ヶ月ごと
建物改修費・事務機器取得費：完了次第

留意事項

事業計画書は随時受付。ただし予算がなくなり次第、受付を終了します。

補助上限等

ソフト

総額 **810** 万円
(空き家 **910** 万円)

	開設時	
100 万円	建物改修費	500 万円
+100 万円	空き家活用の場合	+100 万円
50 万円	事務機器取得費	50 万円
	3 年間	
60 万円 / 年	賃借料	-
60 万円 / 年	通信回線使用料	-
100 万円 / 人年	人件費 ※高度 IT 人材	-
	対象地域	
政令指定都市・中核市・ 阪神南地域以外	対象地域	全県 ※コワーキングスペース開設に係る 制度が創設されている市町に限る
県 1 / 2	補助率	1/2 (県 1 / 4、市町 1 / 4)

問い合わせ

部署名： 産業労働部産業振興局新産業課
電話： 078-362-4157
FAX： 078-362-4273
E メール： shinsangyo@pref.hyogo.lg.jp
URL： <https://web.pref.hyogo.lg.jp/sr10/koudoit.html>





■ ハード型

めざすのはQOLの向上。
新聞社が持つ発信力と
ネットワーク力が生み出す
新しいコミュニケーション空間！



SHINICHI NAKAGAWA

シンプルでインパクトのある名前です

実は、ネーミングの由来にはいろいろな理由があります。

120 がオープンした 2018 年が神戸新聞 120 周年だったからという説。もう一つは起業家精神にちなみ「0 から 1 をつくり出す = zero to one」を覚えやすく数字にして並べ替えた。さらに、オープニングイベントで弊社の社長（当時）が「皆さんの力を発揮し、120% の効果を生み出す場所にしてほしい」と挨拶をしたことから「120% の力を出す場所」として欲しいとの願いも込められている。いずれにしても、まず覚えやすい名前であることが大切ですね。利用していただくためには、思い出していただかないといけませんから。

120 WORKPLACE KOBE

<https://120workplace.jp>
神戸市中央区磯上通 4-1-14 三宮スカイビル 6F ~ 8F
TEL.078-806-8651
レンタルオフィス 32 室・コワーキングスペース 40 ~ 50 席
大会議室 1・小会議室 2・カフェース
OPEN/ 月曜~金曜 10 時~ 21 時、土曜 10 時~ 18 時
CLOSED/ 日曜・祝日
(レンタルオフィスは 24 時間 OPEN)

中川 伸一氏

120 WORKPLACE KOBE の事業本部 営業推進マネージャー。
「コミュニケーションで人を繋ぐ」を自身のミッションに、営業現場で培った人脈を活かしながらコワーキングスペースを育てる日々を送っている。
神戸新聞社 地域総研 地域連携部所属。

立ち上げのきっかけをお聞かせください

神戸スタートアップオフィス事業として、3 年間で 29 社のビジネスを支援してきました。しかし、この事業を通して神戸に事業所を移転した企業は多くなかったのです。実は兵庫県の大きな課題の一つが人口流出です。この課題に向き合いたかったのです。レンタルオフィスを設けることで神戸に拠点を移していただく。その結果、市内・県内の雇用も増え、経済が活性化して地域が元気になる。このサイクルをつくりたかったのです。今は会社になくてもパソコン一つでどこでも仕事ができます。コワーキング施設はそんな時代の仕事場です。神戸は東京や大阪と比べ、まだまだコワーキング文化は発展途上。まずは 120 の存在を知っていただき、利用していただく中でニーズに応えていきたいと思っています。

120 の特徴を教えてください

レンタルオフィスは現在 30 室近く入室されています。個人事業主からスタートアップ企業、中小企業の本社や支店、大企業の 1 部署、海外企業まで様々です。最近「離れた本社に通勤するより、子どもの保育所に近い 120 を仕事場として使いたい」というように、働き方改革としての利用を相談されるケースもあります。一方コワーキングスペースは約 300 人が登録され、一カ月 1,000 人ほどの方が利用されています。毎月交流会や朝会を開催していますが、特に交流会ではテーマを設定。コワーキング先進地として沖縄県大阪事務所の方にお話しいただいたり、ラグビーワールドカップの開催に合わせラグビーの楽しみ方を解説いただいたり、ビールのマーケティングやおいしい飲み方を飲料メーカーの方に話していただくなど、楽しめる集まりを意識して設けています。特に大切にしているのはコーヒーとその香りです。脳への刺激と共に居心地の良い空間づくりを大切にしています。

新聞社ならではの魅力は何でしょうか？

3 つあると考えています。一つ目は「信用」です。起業したての会社への信用はゼロに近く、特にスタートアップの会社では就職が決まった大学生が「そんな会社は知らない」と親から反対された例もあるほどです。そんな企業にとって神戸新聞社が運営する 120 を利用することで、信用という付加価値を手に入れたらと考えています。二つ目は「ネットワーク力」です。起業したばかりの企業が営業に行き、門前払いされるケースはよくあること。120 では新聞社が連携している行政や企業関係者と繋がる機会を設けており、その機会を活用することでネットワークが拡大します。三つ目は「情報発信」。120 には記者が頻繁に出入りしているため、利用者のニュースも掲載されるチャンスがたくさんあります。またプレスリリースの書き方のアドバイスも可能です。

120 の運営で大切にしていることは？

単なるレンタルオフィス業にならないことです。最も大切にしているのはコミュニケーション。新聞社の人間が担当として駐在している意味は、みなさんの声を聴くことにあります。まずは話すことから始め、時には「困っていることはないですか？」と声をかけ、必要な人同士を繋いでいます。例えば、メーカーが新製品を開発した時には新たな用途をみんなで考えたり、相談を受けた記者の手ですぐに新聞記事として掲載されたこともあります。成功は、コミュニケーションから生まれると思っています。

これからの展開をお話してください

クオリティ・オブ・ライフの向上を目指しています。ここを利用することで、通勤や移動にかかる時間短縮や家事・育児と仕事の両立が可能になるなど、使い方を工夫することで日々の暮らしをよりよくしていただきたいと思っています。もう一つが、故郷を強く豊かにしたいという願いです。地方都市に足を運ばなくても支援可能な、いわばリモートサポートが実現できると思っています。新聞社では、日々多くの記者がいろいろな場所でいろいろな人と話をし、課題を持ち帰り記事にします。そうした課題の解決につながる糸を、何百人もいる記者の中で誰かが持っているはず。その糸を渡すことで解決に結びつけることができると思っています。課題にぶつかった時「120 に行ってみよう」と思っただけの基地のような場所にしたい。情報の発信者から、課題解決の相談相手へ。120 ができたことで、地域における新聞社や社員のあり方が変わっていくかもしれないと期待しています。



コーヒーショップを思わせる
コワーキングスペースへの入口

今回の制度を利用された感想をお聞かせください

神戸スタートアップオフィス事業を通じ、神戸市との強い連携があった中でこの制度の存在を知りました。スタートアップ支援を通じ、地域を元気にするという共通の目的がありました。

✓ 疑問や質問、意見交換の仲間づくりのきっかけになる

~コワーキングのネットワークが生まれる足がかりになり、様々な現状課題の解決に繋げることができる

✓ 行政とのパートナーシップを役立てることができる

~県や市と市民、民間企業との橋渡し役として、アドバイスができる場が生まれ相談相手になれる

足を運んで話をしましょう。インターネット上で集めた情報だけでは、本当の使いやすさもわかりません。対話から信頼も生まれます。ぜひコミュニケーションを大切にしてほしいと思います。



ソフト型

佐用町にワクワクする仕事を増やしたい！ 故郷に帰りたくなる場所をめざして



YUICHI TANIGUCHI

コバコの特徴を教えてください

コバコは、その名の通り「小さな箱」という意味です。スモールビジネスを通して自分の世界をつくりたい人を支援したいという想いで名付けました。

そんなコバコの一番の特徴は、「泊まれるコワーキング」であること。出張などで佐用町に来られた方をはじめ、鳥取や岡山への移動の途中で立ち寄られる方や外国の方など、様々な方が利用されています。宿泊者にはコワーキングを24時間無料でお使いいただけることも、大きな強みだと思っています。

オープン当初、ある法人会員が2泊3日の企業合宿で、新サービスをリリースされました。「年に一度はリフレッシュを兼ねた思い出づくりを」とおっしゃった経営者の言葉が印象的でした。

泊まれるコワーキング コバコ Work&Camp

<https://www.cobaco.co.jp>
佐用郡佐用町佐用 2828-10
TEL.0790-65-9637
30席・宿泊10人(2部屋×5人)・会議スペース1・レンタサイクル無料
OPEN / 10時～18時
CLOSED / 日曜・火曜

谷口悠一 氏

佐用町出身。佐用町役場、兵庫県立西はりま天文台勤務を経て、起業家支援を志し大学院へ。監査法人にて会計監査や起業家支援に携わり、2017年11月創業。公認会計士・税理士。

カフェやイベントも開かれていますね

一人での作業をはじめ打ち合わせ、会議、イベントなどに利用いただけるコワーキングおよび宿泊施設の運営を中心に、佐用町の特産品や地元ハンドメイド作家たちの作品紹介、無料レンタサイクルも扱っています。毎週水曜日は地元野菜やお米を並べカフェをオープン。また不定期ですが、新たなつながりを求める人たちにプロジェクトやビジネスを発表する機会を設け、親交を深めながら情報交換を行う場づくりにも取り組んでいます。



最大10名が泊まれる宿泊スペース

立ち上げのきっかけをお聞かせください

故郷の人口減少への危惧と同時に、自分の中でワクワクする仕事を創るお手伝いがしたいと思ったことでした。「駅の目の前がずっと空き店舗ってヤバイ、誰もやらないのなら僕たちが明かりをとそう、自分たちにしかできないことをやろう」。そんな想いから、2017年11月にコバコ株式会社を立ち上げました。

私自身が、かつて佐用町役場の職員として地元で働いた後、都市部のビジネスにも触れたことで、地方も都会も客観的に眺められるようになっていました。地代などの初期投資を抑えられるのでスタートがしやすいこと。また、優秀な人材も多いため、コワーキングのような新しいタイプの仕事は、自分がやりたいことを仕事にしたい人に共感されやすいこと。そんな地域の強みを活かしたビジネスモデルがわかってきました。この一年で商工会や役場との連携も進み始め、これから面白くなっていく手応えを感じています。

コワーキングスペースの運営で 大切にしていることは何ですか？

コワーキングの本質は、空間価値をどれだけ上げることができるかにあります。会員の皆さんがメリットを感じる空間にするために、ひとつは役立つ新情報を常に提供できる場であること。単なる「場所」で終わったのでは差別化が図れず、スペースとしての価値も上がりません。情報がすべてと言っても過言ではないんです。もうひとつは、スペースが進化していくことです。コバコの場合、2018年10月に宿泊施設、11月にカフェ、12月に特産品紹介ブースというように、事業が徐々に拡大しています。



特産品の紹介ブースも充実

今回の制度を利用された感想をお聞かせください

創業補助金からクラウドファンディングまで様々な支援制度がありますが、地方でコワーキング事業に取り組む人におすすめしたい制度です。資金面の支援に留まらず、いろいろな方面への周知に繋がるなど、多くの魅力があります。

- ✓ **最新の情報を早く、多く手にできる** ～接点のなかった県の担当者にも気軽に相談ができるようになった
- ✓ **コミュニティの繋がりが持てる** ～他のコワーキングスペースと情報を交換できる場が用意されている
- ✓ **自社の事業に活かすことができる** ～起業相談者に対し、実際に受けた支援を生で伝えられるためアドバイスに説得力が生まれる

兵庫県でコワーキング事業を始めるなら、こうした繋がりを持たないのは、もったいないこと。「県の支援を受けている」と言えること、「応援されている」と思えることは、事業に取り組むモチベーションを維持するうえでも大切です。弊社にとっても、今回の制度が本当に生きてくるのは、これからだと思っています。



地元の人が集まる場所へ

地元のみなさんの反応はいかがですか？

「コバコがなかったら佐用町に戻ってこなかった、帰ってこれる場所ができた」。スタッフのこの言葉は、うれしかったですね。今、彼女はコバコでイベントの主催を始めていますが、僕が呼べる人とは全く違う人が集まってきます。コワーキングのいいところは、そんなそれぞれの人の得意なことを活かせる場であること。コバコも、みんなが自由に使って、自分のやりたいことを実現する場所であってほしいんです。例えば電車待ちで利用する高校生たちに、友だちと過ごした場所としてコバコが楽しい思い出になれば、町外へ出て帰ってきたと思えるかもしれない。面白い仕事として存在していれば人は自然と戻ってくるし、そもそも町を出ていかなくてもいいと感じるかもしれません。

これからの展開をお話してください

今年度から佐用町では、地域おこし協力隊の隊員自らが佐用町で起業し、自分のビジネスを通して地域おこしに貢献するという新たな取り組みが始まります。コバコが彼らの活動拠点になります。役場の担当者と一緒に先進地へ視察に出かけてヒアリングを行い、この仕組みを採用してもらいました。私たちのビジネスに、役所や商工会との連携は欠かせません。それも待っているのではなく、長期的な目線を大切にしたいこちらの働きかけが大切です。今回の地域おこし協力隊の取り組みは、「起業支援を一気通貫で行う」という弊社のビジョン実現に向けても一つの事例になります。佐用町が盛り上がる一つのきっかけになればいいなと思います。